

指定管理者の管理運営に対する評価シート

所管局・部・課	都市ブランド創造局総務文化部文化企画課
評価対象期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日

1 指定概要

指定管理施設	名 称	北九州市立旧百三十銀行ギャラリー	施設類型	目的・機能
	所 在 地	北九州市八幡東区西本町一丁目20番2号		
	設置目的	演劇、音楽その他の利用に供することにより市民文化の向上に資する。		
利用料金制の状況		非利用料金制 ・ 一部利用料金制 ・ 完全利用料金制		
指定管理者	名 称	株式会社COLT		
	所 在 地	北九州市小倉北区米町一丁目5番15号 勝山大阪町ビル4階		
指定管理業務の内容		・ 施設の使用許可に関する事務 ・ 使用料の徴収に関する事務 ・ 施設の維持管理に関する事務 ・ 貸館業務 ・ 自主芸術文化事業の実施		
指定期間		令和7年4月1日～令和12年3月31日		

【参考：評価レベル】

評価 レベル	乗 率		評価レベルの考え方
5	100%	良 い	要求水準・目標・計画を大幅に上回り、特に優れた管理運営がなされている
4	80%	↑	要求水準・目標・計画を上回り、優れた管理運営がなされている
3	60%	普 通	要求水準・目標・計画を満たしており、適正に管理運営がなされている
2	40%	↓	要求水準・目標・計画を下回る管理運営がなされている
1	20%		要求水準・目標・計画を大幅に下回る管理運営がなされている
0	0%	適切でない	不適切な管理運営がなされている

2 評価結果

評価項目	指定管理者 の自己評価	市（所管局） の評価	市（所管局）の評価理由 ※指定管理者の自己評価との 相違理由 など	配点	得点 （評価結果）
	（評価レベル：0～5）			（100点満点）	
1 施設の設置目的の達成（有効性の向上）に関する取組み				50	50
（1）施設の設置目的 の達成	5	5	利用日数・稼働率ともに目標を大きく上回ったため。 （利用日数・稼働率ともに対目標 比173%）	35	35
（2）利用者の満足度	5	5	利用者の満足度について目標を上回り高い水準を達成しているため。	15	15
2 効率性の向上等に関する取組み				30	22
（1）経費の低減等	3	3	稼働率の上昇に伴い光熱水費等が増加する中、経費削減に努めることで適切に管理運営されているため。	20	12
（2）収入の増加	5	5	施設使用料が前年度収入額を大きく上回る高い水準となったため。（対前年比118%）	10	10
3 公の施設に相応しい適正な管理運営に関する取組み				20	12
（1）施設の管理運営 （指定管理業務） の実施状況	3	3	適切な人員配置のもとで定期的な職員ミーティングを開催し、業務に係るスキルや伝達事項を共有することにより、各職員の資質・能力向上に努めている点や他団体との協働による取り組みを積極的に実施している点が評価できる。	10	6
（2）平等利用、安全 対策、危機管理体制 など	3	3	独自の運用方針を作成し、日常の事故防止等に努めている。個人情報の取り扱いや施設使用料の徴収に際しても適切に管理運営されている。	10	6
【参考：総合評価ランク】 A：優れていると認められる（80点以上） B：やや優れていると認められる（70点以上80点未満） C：適正であると認められる（60点以上70点未満） D：努力が必要であると認められる（50点以上60点未満） E：かなりの努力が必要であると認められる（50点未満）				合 計	100
				総合評価ランク （A～E）	A

【総合評価】 ※指定管理者の特筆すべき功績及び努力を求める点等を踏まえ、総括的に記入してください。

○施設の管理運営は、施設の設置目的に沿って適正に行われた。
 ○利用者の増加や利便性を高めるための取組みを数多く実施し、利用日数・稼働率について、目標を大きく上回ったことは高く評価できる。
 ○利用者の意見を対話や相談・アンケートを通じて把握し、可能な限り改善に努めることで、利用者の満足度について、目標を上回り高い水準を達成していることは高く評価できる。
 ○貸館利用者だけでなく来場者に対してもアンケートを実施し、多くの意見を聞き取り、施設のさらなる魅力向上に向けて努力を行っていることは評価できる。
 ○従来の取組みに加えてSNSによる広報活動を積極的に行い、新規利用者を増やしたことにより、施設使用料が増加したことは高く評価できる。

【北九州市指定管理の評価に関する検討会議における意見】

指定管理者自身が展示のイベントを多数実施している。今後、イベント実施が更なる来館者数増につながることを期待する。引き続き市と指定管理者と協働で、市民サービスのより良い向上に向けて連携していただきたい。

<参考> 現指定期間中の評価結果

区 分	令和7年度 (1年目)	令和8年度 (2年目)	令和9年度 (3年目)	令和10年度 (4年目)	令和11年度 (5年目)	平 均
評価結果 (合計得点)	84	—	—	—	—	84

※高評価のインセンティブ（更新制）について

- ▶1～3年目の平均点が75点以上の指定管理者（指定期間5年間の事業者に限る）について、1期に限り指定の更新（+5年間）を認めるもの。

※低評価のパナルティ（次期選定時の減点）について

- ▶最終年度を除く全指定期間中の平均点が59点以下の指定管理者について、同指定管理施設の次期選定時の審査において減点（総合得点から10点または15点をマイナス）するもの。

事業報告書（指定管理者による自己評価）

1 指定管理施設及び指定管理者の概要

指定管理施設	名 称	北九州市立旧百三十銀行ギャラリー
	所 在 地	北九州市八幡東区西本町一丁目20番2号
指定管理者 （自己評価者）	名 称	株式会社COLT
	所 在 地	北九州市小倉北区米町一丁目5番15号 勝山大阪町ビル4階
指定期間		令和7年4月1日～令和12年3月31日
事業報告（自己評価）の 対象期間		令和7年4月1日～令和8年3月31日

2 企画提案事業・自主事業の実施状況（対象：自己評価の対象期間）

企画提案事業	応募時提案 （□にレ点）	実施の有無 （○・×）	備 考 （補足説明等）
昭和・平成レトロ展開催事業	☒	○	
辰野金吾展開催事業	☒	○	
中古本展示・無料交換市開催事業	☒	○	
松本清張展開催事業	☒	○	
	☐		
	☐		
	☐		
自主事業	応募時提案 （□にレ点）	実施の有無 （○・×）	備 考 （補足説明等）
陸奥A子展開催事業	☒	○	
POP カルチャーアート展開催事業	☒	○	
夏休み企画 OBAKE（おばけ）展	☒	○	
デジタルマンガ教室開催事業	☒	×	令和8年度に実施予定
グッズ販売事業	☒	×	令和8年度に実施予定
	☐		
	☐		

※応募・申請時の提案書や毎年度の事業計画書等に記載の事業を記入してください。

3 自己評価結果

評価項目及び評価のポイント		自己評価
1	施設の設置目的の達成（有効性の向上）に関する取組み	
	(1) 施設の設置目的の達成	評価レベル (0～5)
	① 計画に則って施設の管理運営（指定管理業務）が適切に行われたか。また、施設を最大限活用して、施設の設置目的に沿った成果を得られているか（目標を達成できたか）。 ② 利用促進を目的としている施設の場合、施設の利用者の増加や利便性を高めるための取組みがなされ、その効果があったか。 ③ 複数の施設を一括して管理する場合、施設間の有機的な連携が図られ、その効果が得られているか。 ④ 施設の設置目的に応じた効果的な営業・広報活動がなされ、その効果があったか。	5
	【評価の理由、要因・原因分析】 ① 施設の管理・運営等は適切に行われている。目標と比較して稼働率・来館者数ともに大幅に増加できたことで高く評価できる。 ② 以下のような利用者の増加や利便性を高めるための取り組みを行った。 ・「市政だより」や「かるぽー」を活用したイベントの情報提供。 ・ホームページへのチラシの掲載、他施設へのチラシの掲示・配布依頼の実施。 ・ホームページへ貸館情報を掲載し、速やかに予約反映をすることで利用しやすい環境整備を実施。 ・施設の駐車場にイベント告知看板を設置し、公開中イベント～今後の予定を掲示した。道行く人へ何が開催されているのかわかる掲示となっている。 ・SNS（インスタ・FB）特にインスタグラムで写真・動画をUPして集客を行った。 ・イベント時のアンケートとホームページの問い合わせフォームから広く意見を募り可能な限り要望に応え利便性の向上に努めた。 ③複数の施設は管理していない。 ④以下のような営業・広報活動を行った。 ・チラシ配布先を市民センターや公共施設などさらに増やした。 ・運営職員の人脈による今までとは異なる新規利用者の開拓。 ・イベントによってはマスコミへの取材依頼を行い、PRを実施した。 ・館長が民間企業営業、副館長が公共施設営業を行いリーフレットやイベントチラシを置く場所を増やした。	

年度	要求水準・ 目標・実績	利用日数	稼働率	利用件数 (参考値)	来館者数 (参考値)
R6年度 (更新前)	要求水準	120 日	33.3%	35 件	—
	目標	—	40%	50 件	—
	実績	128 日	38%	45 件	4,244 人
R7 年度 (1年目)	要求水準	140 日	40%	—	—
	目標	144 日	40%	—	—
	実績	249 日	69%	37 件	5,456 人
R8 年度 (2年目)	要求水準	140 日	40%	—	—
	目標	144 日	40%	—	5,000 人
	実績	—	—	—	—
R9 年度 (3年目)	要求水準	140 日	40%	—	—
	目標	162 日	45%	—	5,500 人
	実績	—	—	—	—
R10 年度 (4年目)	要求水準	140 日	40%	—	—
	目標	172 日	48%	—	6,000 人
	実績	—	—	—	—
R11 年度 (5年目)	要求水準	140 日	40%	—	—
	目標	180 日	50%	—	6,500 人
	実績	—	—	—	—

※ ・・・評価対象年度

※R 6 年度までは、利用件数及び稼働率を要求水準で定めていたが、施設の特性上 1 つのイベントにつき 1 件の利用予約で利用日数（イベント開催期間）が複数日あることが多いことから、R 7 年度以降は、利用日数及び稼働率を要求水準で定め、評価することとなった。

※来館者数については、要求水準で定めていないが、参考値として掲載している。

(2) 利用者の満足度	評価レベル (0～5)
① 利用者アンケート等の結果、施設利用者の満足が得られていると言えるか。	5
② 利用者の意見を把握し、それらを反映させる取組みがなされたか。	
③ 利用者からの苦情に対する対応が十分に行われたか。	
④ 利用者への情報提供が十分になされたか。	
⑤ その他サービスの質を維持・向上するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。	

【評価の理由、要因・原因分析】

・①目標である 95%を超え、高い水準を達成し満足を得られていると言える。利用者アンケート等において、特に『スタッフの応対』および『施設（環境面）』に対して高い評価を得ている。これらの評価項目は『次回利用意向』の回答割合と同程度の高い数値を示しており、良好な顧客満足度の維持がリピーターの確実な確保に寄与している

ものと分析される。

- ・②③利用者の意見は、対話や相談・アンケートを通じて把握し、重要なものは市と情報共有しつつ可能な限り改善に努めている。
- ・④ホームページで常にイベントや施設の使用の最新情報を提供しており、電話や訪問による問い合わせ・施設見学にも迅速に対応し、利用者の求める情報を届けることができている。(SNS ヘインスタ写真・動画掲載を行った)
- ・⑤過去にない事例が発生した際は、職員で迅速な情報共有と対策を講じ、必要であれば適宜市に報告・連絡・相談を行い改善や対応に努めた。また、実施したイベントの情報を蓄積・共有し、初めて利用される方が行いたい事について類似の事例があれば、積極的にそのときの情報を提供し、利用者がイベントをイメージする手伝いを行って利用客へ寄り添う営業を行っており、その結果施設利用者を増やすことができた。

【満足度】	R 6年度 (更新前)	R 7年度 (1年目)	R 8年度 (2年目)	R 9年度 (3年目)	R 10年度 (4年目)	R 11年度 (5年目)
要求水準	95%	95%	95%	95%	95%	95%
目標値	89.0%	95%	95%	100%	100%	100%
実績	100%	96%	—	—	—	—
有効回答数	29 件	28 件				
スタッフの 対応	100%	95.7%				
施設 (環境面)	92.3%	95.8%				

※ ・・・評価対象年度

2 効率性の向上等に関する取組み

(1) 経費の低減等

評価レベル
(0～5)

- ① 施設の管理運営（指定管理業務）に関し、経費を効率的に低減するための十分な取組みがなされ、その効果があったか。
- ② 清掃、警備、設備の保守点検などの業務について指定管理者から再委託が行われた場合、それらが適切な水準で行われ、経費が最小限となるよう工夫がなされたか。
- ③ 経費の効果的・効率的な執行がなされたか。

3

【評価の理由、要因・原因分析】

- ・①施設の管理運営については、効率的な運営がなされている。光熱費は細かな室温管理を行い、経費削減を図ることで予算を超過することなく執行することができた。
- ・②③再委託業務については、地元企業を基本に再委託先を選定し、見積もり比較を行

って経費削減に努めた。また、一部の清掃業務や駐車場の白線引き等、施設職員で対応可能なものは職員が自ら行うなどの見直しを行っている点は評価できる。

(単位：千円)

【支 出】		R 6年度 (更新前)	R 7年度 (1年目)	R 8年度 (2年目)	R 9年度 (3年目)	R 10年度 (4年目)	R 11年度 (5年目)
人件費	計画	2,992	5,270	5,270	5,270	5,270	5,270
	実績	3,181	5,270	—	—	—	—
施設維持 管理費	計画	933	996	996	996	996	996
	実績	913	1,740	—	—	—	—
その他管 理運営費	計画	2,643	901	948	1,040	1,024	922
	実績	2,477	1,180	—	—	—	—
一般管理 費等	計画	0	470	520	440	470	420
	実績	0	0	—	—	—	—
計	計画	6,568	7,637	7,734	7,746	7,760	7,608
	実績	6,568	8,190	—	—	—	—

※ ・・・評価対象年度

※施設の稼働率上昇に伴い、光熱費等が増加し、一部支出に不足が生じたが、当該不足分については株式会社 COLT が補填し会計処理を完了した。次年度以降は、自主事業による財源の確保等を図ることで当該損失分を相殺し、早期の黒字化を目指す。

(2) 収入の増加

評価レベル
(0～5)

- ① 収入を増加するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。
- ② 使用料(利用料金)収入以外に、自主事業による収入や、企業などの外部からの収入(例：協賛金など)を獲得できているか。
- ③ 自主事業による収益を活用した施設の魅力向上などの投資や、サービス向上などの指定管理業務や市への収益還元の取組みがなされたか。

5

【評価の理由、要因・原因分析】

- ・①ホームページやチラシ配布といった従来の取り組みに加え、運営職員の人脈、インスタグラムやフェイスブックといったSNSによる広報活動を積極的に行って新規利用者を増やし、施設の稼働率を上げ、その結果、施設使用料収入が123千円増加した。(対前年度17.6%増)
- ・② POP カルチャー(マンガ・昭和展・おばけ展)等を行い、新しい客層を広げた。
- ・③ 北九州市デザイン協会へのPRを行い市内のデザイナー、写真家、イラストレータへ利用を促進した。

		(単位：千円)					
【収 入】		R 6年度 (更新前)	R 7年度 (1年目)	R 8年度 (2年目)	R 9年度 (3年目)	R 10年度 (4年目)	R 11年度 (5年目)
指定管理 料収入	計画	6,568	7,637	7,734	7,746	7,760	7,608
	実績	6,568	7,637	—	—	—	—
自社補填 分	計画	0	0	0	0	0	0
	実績	0	553	—	—	—	—
自主事業 収益還元	計画	0	0	560	560	560	560
	実績	0	0	—	—	—	—
計	計画	6,568	7,637	8,294	8,306	8,320	8,168
	実績	6,568	8,190	—	—	—	—

※ ・・・評価対象年度

※次年度以降、自主事業として以下のような取り組みを予定している。

・イベント開催支援およびクリエイティブ制作事業

主催者に対し、保有器具・機材の有料貸出を行うとともに、イベント企画のコンサルティング、およびパネル、ポスター、チラシ等の広報・デザイン制作を一括して受託するサポート体制を構築し、利用者の利便性向上と新規収益の確保を図る。

・アーティスト・クリエイター育成・交流イベントの開催

株式会社 COLT の主催により、アーティストやクリエイターが集う「出店ブース形式のイベント」を定期開催する。本施設をアート表現および POP カルチャー文化の発信拠点として位置づけ、新たな客層の開拓と参画料等による事業収入を見込む。

・施設オリジナルグッズの開発および物品販売事業

来館者および観光客を対象に、著名な少女漫画家・陸奥 A 子氏のデザインを活かした旧百三十銀行ギャラリーのオリジナルグッズ等の企画・販売を行い、施設ブランドの認知度向上と物販収益の強化を図る。

		(単位：千円)					
【施設使用料】		R 6年度 (更新前)	R 7年度 (1年目)	R 8年度 (2年目)	R 9年度 (3年目)	R 10年度 (4年目)	R 11年度 (5年目)
施設使用 料収入	実績	698 千円	821 千円	—	—	—	—
	前年度比較	—	123 千円				

3 公の施設に相応しい適正な管理運営に関する取り組み

(1) 施設の管理運営（指定管理業務）の実施状況

- ① 施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員の配置が合理的であったか。
- ② 職員の資質・能力向上を図る取り組みがなされたか（管理コストの水準、研修内容など）。
- ③ 地域や関係団体等との連携や協働が図られたか。

評価レベル
(0～5)

3

〔評価の理由、要因・原因分析〕

- ・①施設の管理運営にあたる人員の配置は適切に行われている。効率的な人員配置と勤務体制により、人件費の抑制を図った。
- ・②定期的な職員ミーティングを開催し、その中で業務に関わるスキル(エクセル・ワード・SNS、HP 管理、特殊な施設設備の使用法、営業のポイントなど)の情報共有・勉強会を行い各職員の資質・能力向上を図った。その結果、業務への共通理解が進み、意見交換が活発になり、利用客への対応のばらつきが減少した。
- ・③JR ウォークなど八幡地区で開催されるイベントに協力したり近隣の図書館で廃棄される本を古本交換市イベントで活用し市民の手へ届けるなどの活動を行っている。

(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制など

評価レベル
(0～5)

- | | |
|--|---|
| ① 施設の利用者の個人情報保護のための対策が適切に実施されているか。 | 3 |
| ② 利用者を限定しない施設の場合、利用者が平等に利用できるよう配慮されていたか。 | |
| ③ 利用者が限定される施設の場合、利用者の選定が公平で適切に行われていたか。 | |
| ④ 施設の管理運営（指定管理業務）に係る収支の内容に不適切な点はないか。 | |
| ⑤ 日常の事故防止などの安全対策が適切に実施されていたか。 | |
| ⑥ 防犯、防災対策などの危機管理体制が適切であったか。 | |
| ⑦ 事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか。 | |

〔評価の理由、要因・原因分析〕

- ・①施設利用者の個人情報について、関係法令を遵守の上、細心の注意の元、適切な管理を行っている。また、利用申請書を取り扱う管理責任者を館長・副館長とし、その他職員が取り扱う場合の管理監督を適切に行っている。
個人情報の記載されている利用申請書は事務所内の施錠可能なキャビネットに保管し、館長・副館長が管理している。
- ・②利用申し込みは平等に取り扱い、利用者の立場に立ったサービスを提供している。
- ・③該当なし。
- ・④使用料の徴収及び市への納付についてトラブルや不適切なものはなかった。また、月例報告書など各種報告書も適切であった。(どちらも担当者とその他の職員でダブルチェックしフォローできる体制を整えた)
- ・⑤⑥安全対策・防犯では施設の開館・閉館におけるオペレーション・チェックシート

の作成と運用を行い日常の事故防止に努めた。また、防犯カメラの操作方法の確認・研修を行った。

防災面では最低限の救急資材を備えるとともに、設置してある AED の操作研修を行った。また、職員全員が参加する自衛消防訓練を実施している。

- ・⑦清掃業者の方の転倒事故が発生したが、幸いにも大事に至らず、緊急時のオペレーションに従い、タクシーによる病院へ送迎、清掃会社・館長・市への報告を適切に行うことができた。

【総合評価】

【全体的な評価・今後の対応等】

- ・施設の管理運営は、施設の設置目的に沿って適正に行われた。
- ・館長以下職員の強みを生かした営業活動や提案事業による知名度・来館者数の向上は大きく評価できる。次年度も継続して市民が興味をもってくれるイベントを増やしていく。
- ・アンケートの結果、高齢者層中心の来場が多かった。その層に加えて今後は POP カルチャー層の自主事業を行い若い客層も広げていきたい。
- ・今後は施設利用者（主催者）を増やす為、主催者向け施設利用のチラシ（絵画・写真・イラスト・現代美術・マンガ・ゲーム・アニメ作家用）を作成し施設利用を促進していきたい。
- ・今後は施設の利用期間、利用客、来館者の増加に伴う管理コスト増加をカバーする方法の模索と展示料金以外での収益をあげられる仕組み作り（物販・イベント誘致など）を行う。

【評価レベル】

評価レベル		評価レベルの考え方
5	良 い	要求水準・目標・計画を大幅に上回り、特に優れた管理運営をおこなった
4	↑	要求水準・目標・計画を上回り、優れた管理運営をおこなった
3	普 通	要求水準・目標・計画を満たしており、適正に管理運営をおこなった
2	↓	要求水準・目標・計画を下回り、課題の残る管理運営となった
1		要求水準・目標・計画を大幅に下回り、大いに課題の残る管理運営となった
0	適切でない	不適切な管理運営となった

※この様式は外部にも公表する資料となります。